

## ネイティブ微生物 クレアチニナーゼ

Cat. No. NATE-0163

Lot. No. (See product label)

### はじめに

**説明** *Pseudomonas* sp. 由来のクレアチニナーゼは、サブユニットあたり28.4 kDaの分子量を持つホモヘキサマー酵素です。これは、クレアチニンをクレアチンに可逆的に交換するサイクリックアミドヒドロラーゼです。各モノマーは、βストランドのC末端近くと主なαヘリックスのN末端に二核亜鉛中心を含んでいます。これらの亜鉛イオンは、活性部位の位置を示しています。

**用途** この酵素は、臨床分析においてクレアチンアミジノヒドロラーゼ、サルコシン脱水素酵素、またはサルコシンオキシダーゼおよびホルムアルデヒド脱水素酵素と結合することで、クレアチニンの酵素的測定に有用です。

**別名** EC 3.5.2.10、クレアチニンヒドロラーゼ；クレアチニナーゼ；9025-13-2

### 製品情報

由来	微生物
形態	スクロースとBSAを安定剤として含む凍結乾燥粉末
EC番号	EC 3.5.2.10
CAS登録番号	9025-13-2
分子量	mol wt ~175 kDa
活性	100-300 ユニット/mg タンパク質
等電点	4.7
pH安定性	pH 7.5 – 9.0 (5°C, 16時間)
最適pH	6.5 – 7.5
熱安定性	70°C未満 (pH 7.5、30分)
最適温度	70°C
ミカエリス定数	$3.2 \times 10^{-2} \text{M}$ (クレアチニン)、 $5.7 \times 10^{-2} \text{M}$ (クレアチン) 構造: 酵素1モルあたり6つのサブユニット (各サブユニットに1モルの亜鉛が結合している)
阻害剤	Ag <sup>+</sup> , Hg <sup>++</sup> , N-プロモスシニミド, EDTA
単位定義	1ユニットは、pH 8.0および25°Cで、1.0 mmoleのクレアチニンをクレアチンに加水分解します。

### 保管・発送情報

保存方法 2-8°C